

編集後記

平成11年度から、本機関誌は年度2回発行体制となった。平成12年度も当然年度2回発行を予定し、9月に第8号を出すべく準備を進めてきた。投稿論文の審査に時間がかかり、一時9月発行が危ぶまれた時期があった。しかし、関係各位のご協力により、第8号を予定した時期に世に出す運びとなった。改めて、ご協力をいただいた皆々様に御礼申し上げる次第である。

今回、採用となった投稿論文は、「家計の消費支出からみた歯科医療費の長期的な動向の分析」(尾崎哲則氏)と「同等医薬品・同一保険償還価格制度の研究開発への影響」(中村 洋氏)の2本である。医療費の長期動向と薬価制度は、共に医療保険改革の重要テーマである。この2本の論文が医療保険改革の参考文献として、いささかなりともお役に立つことができれば幸いである。

前年度から医療経済研究機構が行った代表的プロジェクトを論文形式にまとめて報告している。第8号では、1995年の産業連関表をベースに医療・福祉の社会経済効果分析を発表した。論文執筆は、この研究会の座長を勤められた宮澤健一教授である。最近、医療・福祉分野の経済浮揚効果が注目されている。宮澤論文によって、その効果が綿密な実証分析を通じて裏付けられたもの考える。

尚、今回、高名なV. R. フェックス先生の論文「医療経済学の将来」を二木立教授の名訳で掲載することができた。大変示唆に富んだ論文である。わが国の医療経済学の発展に資することを目指している本機関誌にとっては、大変有益な論文である。フェックス、二木両先生のご協力に改めて謝意を表したい。

研究ノートとして「厚生行政の政策評価に関する調査研究」(野口正人氏)を発表した。テーマがとても珍しく、新鮮である。多くの識者に一読をお願いする次第である。

本機関誌は、創刊以来7年目に入る。編集事務局は編集委員会を補佐して、より良い機関誌に育て上げたいと念願している。各方面のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。次第である。

(編集事務局代表 上條俊昭)